みどり

札幌市立みどり小学校
学校だより
令和８年１１月２０日

令和8年度　全国学力･学習状況調査の結果について

今年度４月に６年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の、本校の結果概要をお知らせします。今回の結果は６年生のものですが、他学年にも共通する「学校全体の課題」として捉え、今後の指導改善に生かしてまいります。なお、この調査は、お子さんの学力や生活の「限られた一部」を測定したものです。結果の数値だけで全てを判断するものではないことをご理解のうえご覧ください。

【調査の内容】

１．教科の調査（国語・算数）
※小学校５年生までに学習した内容が出題されました。
① 基礎的な知識・技能
・今後の学習や、毎日の生活の中でしっかりと身に付けておきたい内容
② 活用する力
・覚えた知識を使って課題を解決したり、自分の考えを工夫して表現したりする力

２．学習や生活についての質問調査
・学習への意欲や興味・関心
・授業の理解度や家庭学習の様子
・早寝早起きなどの基本的生活習慣　など



以下、本校の具体的な結果と今後の取り組みについてお伝えします。

【小学校国語】

本校の概要	課題	改善の方向
【内容】 ＜知識及び技能＞ ◇**「言葉の特徴や使い方に関する事項」** ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている ◇**「情報の扱いに関する事項」** ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている ＜思考力・判断力・表現力　等＞ ◇**「話すこと・聞くこと」** ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている ◇**「書くこと」** ・全国平均を下回っている ◇**「読むこと」** ・全国平均を上回っている いずれの領域においても、問題の形式（選択式・担当式・記述式）にかかわらず、無回答率が全国平均を下回っている。	●引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。 ●筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。 ●資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現（話し方）を工夫すること。 ●話や文章の種類とその特徴について理解すること。	○「文章中に『○○』とあるように～」といった型を用いて他者の意見や本文の言葉を引用しつつ、自分の意見と明確に区別して書く活動の充実 ○「構成メモ（思考ツール）」を活用し、「はじめ・なか・おわり」の段落構成や対比・結論などの展開を考える活動の充実 ○グラフや図表、写真などの資料を提示しながら自分の考えを発表する活動の充実 ○説明文・物語・意見文などの文章の種類と目的を意識させ、それぞれの構成や表現の特徴を捉えて読む活動の充実

【小学校算数】

本校の概要	課題	改善の方向
【領域】 ◇「数と計算」 ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや上回っている	●異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて説明すること。	○「なぜそう言えるのか」を説明できるよう、「A だから B である」という根拠と結論をセットにした記述型を活用しつつ、図や式といった複数の表現を使って自分の言葉で理由を述べる活動の充実
◇「図形」 ・全国平均を上回っている ◇「測定」 ・全国平均を上回っている ◇「変化と関係」 ・全国平均を上回っている	●図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さをとらえ、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて説明すること。	○ノート等に筋道立てて思考を展開し、他者に分かりやすく伝える活動の充実
◇「データの活用」 ・全国平均とほぼ同程度であるが、やや下回っている	●二次元の表から、条件に合う数を読み取ること。	○表や図、文章問題から必要な情報を選んで活用する活動の充実
	●示された二つの表から、集計に誤りのある項目を見付け、その根拠を表の中の数と言葉を用いて説明すること。	○提示された情報や友達の考えの「ズレや間違い」を見つけ出し、根拠を示して説明する探究的な活動の充実
いずれの領域においても、記述式の問題における無回答率が他の回答形式（選択式・短答式）より高い。		

【学習や生活についての質問調査】（顕著な結果が出ているものを取り上げています）

【学習に関する質問】

対話的な学び・協働的な学びにかかわって

「学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」の肯定的回答が、前年度より大きく上昇。また、「自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりできた」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」の肯定的回答が全国を上回り、話し合いを通じた考えの深まりを実感していることがうかがえます。

学んだことの復習と、次の学習へのつながり

「学習した内容を見直し、次の学習につなげることができている」の肯定的回答が、全国平均をやや下回っています。

ICT の活用にかかわって

「PC・タブレットで文章／プレゼンテーションを作成できる」「総合的な学習の時間において PC・タブレットを使ってうまく情報を集めたり整理したり発表したりできている」「インターネットを通じた情報収集スキル（検索・調べるなど）への自信」の肯定的回答が全国平均を上回っています。

【生活に関する質問】

自己肯定感と感情的ウェルビーイング

「自分には、よいところがある」「将来の夢や目標を持っている」「学校に行くのが楽しい」「日常で幸せな気持ちになる」が、いずれも全国を上回っています。

悩み・不安の相談、友人関係

「困りごとや不安がある時に先生や大人の人に相談できる」「友達関係に満足している」は、全国平均をやや下回っています。

【自己認識に関する質問】

自己有用感・社会的貢献意識（他者や社会との関係における自己）

「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「いじめはどんな理由があってもいけない」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」の肯定的回答が昨年度同様に高く、全国とほぼ同じ水準です。

情緒的自己認識（幸福感・情緒状態の自己評価）

「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」の肯定的回答が高く、全国比較でも高い幸福感を維持しています。ただし、「当てはまる」単体の割合は昨年度より下がり、「どちらかといえば幸せ」を含め、やや落ち着いた自己評価へシフトしている様子が見られます。

今後のかかわりの方向

・他者の視点を自らの復習につなげる学習を日常化し、オクリンクプラスやノート等での振り返りや考えの共有を通して定着を図る。

・問いを立てて調べる探究学習を展開し、タブレット等で考えを可視化・共有して深め合い、学び方を工夫する力を育む。

・異学年交流や委員会で下級生を支える場を設け、活動後の自己評価・他己評価でよさを認め合うことで、自己有用感や満足感を高めるとともに、人とかかわることの楽しさを味わわせる。

・日常のふれあいを通して信頼関係を育み、子どもの小さな変化やサインに気付いて寄り添うことで、安心できる居場所をつくる。